令和４年度　江戸川区立葛西中学校　学校関係者評価　最終評価用報告書

学校教育目標	「豊かな心」 ・自ら進んで学ぼう　・責任を果たそう　・健康な生活を送ろう	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	・保護者にとって、子どもを通わせてよかったと思える学校 ・「確かな学力」「豊かな心」「健康な体」をバランスよく備えた生徒 ・人権尊重の精神に富み、自身の職務に専念し、生徒・保護者から信頼される教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞・コロナ禍で一昨年実施できなかった行事においても、昨年度は感染対策を実施しながら、実施することができた。 ・ESDに関して、少しずつではあるが各授業、行事において意識し教育活動にあたることができるようになってきた。 ＜課題＞・本校独自の不登校対策支援シートを用いて、不登校生徒の未然防止に努めてきたが、不登校生徒が前年度より増えてしまった。教育相談体制を充実させることにより、不登校の減少を図る。 ・学習タブレットを活用した、教員の授業力・指導力を向上させるために、校内研修の充実を図る。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・7つの主な事業（取組）に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・「確かな学力向上推進プラン」に基づき、全教員が学習タブレットを利用し授業改善を実施し、生徒の学力向上を目指す。 ・補習教室の委託会社トライと連携し、年間を通して、補習教室のより一層の充実させる。 ・「eライブラリアドバンス　江戸川っ子study week」を学期に1回実施	・全教員が学習タブレットを授業で活用できるようにする。また、令和3年度より、C,D層の生徒を5パーセント以上の削減 ・補習教室参加生徒の確認テストの達成率を、年度初めより年度末を5%向上を目指す。 ・eライブラリアドバンスを試験勉強等で活用する生徒70%以上	B	B	●全教員がタブレットを活用し授業をすすめている。C、D層の生徒の割合は、全国学力調査の結果から、令和3年度は44%、令和4年度も44%であった。CD層の5パーセントの削減は達成しなかった。 ○補習教室年間を通して、意欲的に参加した生徒に対しては、大きな効果があり学力向上につながったと考えられる。しかし、参加者を向上させることが今後の課題である。 ●「eライブラリアドバンス　江戸川っ子study week」で活用を勧めたが、なかなか浸透しなかった。	B	学力向上に取り組んでいる学校の努力は伝わってくる。 日頃の授業や取り組みがC、D層の生徒の学力向上に少しでも結びつくと良い。 家庭が学校に協力する意識がもっと向上すると良い。学校からの情報発信を家庭や地域は受け止め、今後も協力していかなければならない。学校評議員としても学校と連携を密に情報交換を密にしていく。	C、D層の学力向上は喫緊の課題である。 学習進路部を中心に、生徒一人ひとりに基礎学力を定着させる。さらに基礎学力を活用した実践力向上に力を入れた指導を充実させる。 周囲の考えを認め、それをまとめ、自分の言葉で発表する力にも注目し、様々な場面で主体的に発信できる力を身に付けさせるために、グループ学習の機会を増やす。また、ICT機器を駆使できる指導力向上を目指す。
	体力の向上	・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実	・年間を通して、体育の授業において、5分以上の補強運動を実施する。 ・昼休みの「外遊び」の奨励	・東京都体力テストで、前年度よりAかつBの割合が10パーセント向上	B	B	●1学期に東京都体力テストを実施した。AかつBの割合全体の40パーセントで、昨年度とほぼ同じ割合であった。体力の向上を目指し、補強運動を続けていく。 ○昼休みは、学級の30%以上の生徒が、昼休み校庭で遊んでいる状況である。	B	体力テストの結果から、スコアが平均的になり良いと感じる。引き続き体力向上に取り組むことを期待する。 昼休み多くの生徒が校庭で遊んでいて、学校生活が楽しいと感じる生徒が多くて良い。	授業や部活動で楽しんで取り組めるような活動・練習を教員同士が情報交換し共有する機会を設定する。 保健体育の授業や部活動の練習が学校に登校する一つのきっかけになるように教員の意識を高める。不登校生徒の数を減らすための活動に結び付ける。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・各学年において、読書紹介や新聞づくりなどに向けて探求的活動を行い発表を行う。年1回以上実施する。 ・学校司書、学校応援団による、学校図書館の整備と開放 ・読書科の取組をホームページで公表	・読書科に取り組みにおいて、保護者アンケートの肯定的意見70%以上。 ・学校応援団と生徒が協働した、ボランティア活動による図書館整備。 ・読書科の取組のホームページを毎月更新する。	B	B	○朝読書、調べる学習コンクールへの出品、お勧めの本づくりを実施した。探究的な学習において、主体的に学習取り組む力がついた。読書科に関しての保護者アンケートにおいては、肯定的意見が75パーセントで目標が達成できた。 ○夏休みに2日間、2学期に1回、3学期に1回、ボランティア活動を実施。延べ約70名の生徒が参加。ボランティアマインドの向上につながった。 ○ホームページは年間を通して、随時更新してきた。	A	読書冊数が多いのはすばらしいと思う。 ボランティア活動は大切である。さらに多くの生徒が参加できて良かった。	読書科については、今年度の取り組みを継続させ、成果物の内容がさらに向上するようにする。肯定的意見が85%以上になることを目指す。 ボランティアは学校内外問わず、積極的に発信し、担任と協力して、固定化されたメンバーだけでなく、初めて参加する生徒を増やす。
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・特別支援専門員、心理士、SCとの連携を教育相談委員会を通して強化し、エンカレッジルームの活用を促進する。	・教職員、保護者の学校評価のアンケートにおいて、肯定的意見80パーセント以上を目指す。	B	C	●教育相談に関する、保護者の肯定的意見は69パーセントで目標を達成することができなかった。アンケートおいては、わからないに回答する割合が多く、実施していることを積極的に公開することが課題である。 ○教室には難しいが、決められた時間や放課後等、エンカレッジルームなら登校することができる生徒が3学期になり増えてきた。不登校の生徒は多いが、エンカレッジルーム登校をきっかけに改善できるよう今後も促していく。	B	学校の取り組みを積極的に保護者に公開していくとの考えに対して、大いに期待している。 せっかく十分に準備をして取り組んだにも関わらず、保護者に伝わっていなかったがためにアンケートの結果「わからない」という数字となり、成果を下げるのは残念である。	今年度途中でアンケートをとったユニバーサルデザインの活用について、各自最低でも一つの取り組みを実施する。教育相談について、様々な相談機関、SC、エンカレッジルーム、SSW等があることを、HPや学校だよりで発信し、活用を促進させる。 保健体育や部活動だけでなく、何かしら楽しく学校に登校するきっかけができるように、教育相談に対する教員のスキルを高める。不登校生徒の数を現状より減らす。
	子供たちの健全育成	・子供たちの健全育成に向けた取組の強化	・hyperQUを5月と11月の年2回実施。hyperQUの結果を検証し、学級の改善に努める。	・2回目のhyperQUにおいて、学級の満足度が向上するクラス8割以上	B	B	○1学期に1回目を実施した。hyperQUを2学期に2回目を実施。2回目のhyperQUの学級の満足度は5パーセント向上した。しかし、8割のクラスの向上には達成できず、7割程度だった。	B	hyperQUなど様々な取り組みを行っていて充実していると感じる。来年度は満足度が目標通り達成されることを望む。	hyperQUの取り組みを継続させ、より専門的な見方、活用方法を身に付けるため、専門家の研修の機会を設ける。
			・月1回のSSWの情報交換を組織的に行い、SSWとの連携を強化する。	・改善方向の事例3件以上を目指す。	B	B	○6月以降、SSWとの連携ですすめている事案が4件ある。そのうち、3件は改善傾向を示す事例がある。今後も課題がある生徒に対して対応を継続していく。	A	専門機関との連携を生かし改善傾向に向かわせている点は良いと思う。	SSWとのより密な情報交換で今年度以上の協力体制を構築する。
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	・学校評議員会、民生委員との連絡会等で、学校関係者評価を実施し、内容の検討、改善を図る。	・学校関係者評価の内容に関して、肯定的意見80パーセント以上	A	A	○6月、9月、3月に学校評議員を実施した。評議員の皆様から、貴重なご意見をいただき、次年度以降の学校の改善、発展に生かしていく。	A	学校評議委員会の毎回の話し合いは密で、学校との意見交換は充実したものになった。 来年度も可能な限り学校に足を運び、意見交換を行いたい。	今年度の取り組みを継続させる。 学校評議員の方の意見に耳を傾け、さらに情報を収集していく。
	家庭、地域との連携	災害発生時の対応の場合の共助の心の育成	・夏休みにPTAと連携した防災体験教室を夏休みに実施	・実施後のアンケートにおいて、肯定的な意見80パーセント以上	A	A	○8月27日に学校とPTA、江戸川区危機管理部、葛西消防署が連携し防災教育を実施した。実施後のアンケートにおいて、児童生徒のほぼ全員が、肯定的意見を記載し、目標が達成できた。	A	学校での防災訓練はとても良いと思う。特に中学生が小学生に防災設備を教えるスタイルは続けてほしい。 今年度は、長島町会の防災訓練も実施でき、葛西小学校葛西中学校と連携ができたことがとても良かっ	葛西小中の設備を活用した防災訓練は、今後も継続し発展させる。中学生のボランティアを集い、小学生に教えていくスタイルで、今年度とは違う備蓄倉庫にあるものや防災設備を駆使し扱いに慣れる。
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・スクールサポートスタッフの有効活用 ・学校経営を担う人材（副校長補佐）を導入し、副校長の働き方改革を推進する。	・教員、副校長の10月以降（下半期）の勤務時間、月10時間の軽減を図る。	B	B	○学校として、副校長補佐に業務を組織の中に位置づけし、学校経営がさらに円滑になるよう進めてきた。副校長補佐の、業務も円滑にすすむようになってきた。次年度になるとさらに大きな効果があると考える。	A	副校長補佐、SSSなど様々な職種が現場に入り働き方改革が少しずつ進んでいると感じる。 教職員の勤務時間が減少し、負担が減ることを望む。	副校長補佐やSSSの仕事の割り振り、分担を明確にし、教職員が依頼できることをわかりやすく示す。 時間外勤務時間を確実に減らす。
			・文部科学省のガイドラインに基づく、部活動の適正な実施を図る。	・保護者の部活動に対する肯定的意見80パーセント以上	B	B	○文部科学省のガイドラインに沿って、適正に部活動を運営している。保護者の部活動に対する肯定的意見はちょうど80パーセントであり、目標が達成した。引き続き、生徒にとって充実した部活動を運営し	A	各部が適切に活動し生徒のためになっている。今後も活動時間はそのままでより中身の濃い活動を期待する。	地域や保護者の意見を取り入れながら、より有益な部活動運営を目指す。
	教員の校内研修の充実	・ICTの指導力の向上	・LINESのICT支援員と協働し、ICTの活用を向上させる研修を年3回実施する。	・保護者学校評価アンケートにおいて、ICTの活用に対する肯定的意見80パーセント以上	A	B	○LINES主催の研修等、ICT研修を5回実施した。 ●保護者学校評価アンケートにおいて、ICTの活用に対する肯定的意見67パーセントで目標の80パーセントには到達しなかった。	A	タブレットを活用した授業の進め方について、各学年ごとにICT活用到達目標が違うとのことで、こうしたことも保護者の方々に差し支えのない範囲で公開していくことで、様々なお考えを持つ保護者の方々に理解が広がっていくと思った。	ICT機器を使った授業を各教員が必ず実践する機会を計画する。年4回の学校公開やHPでICTを駆使した授業を紹介していく。